

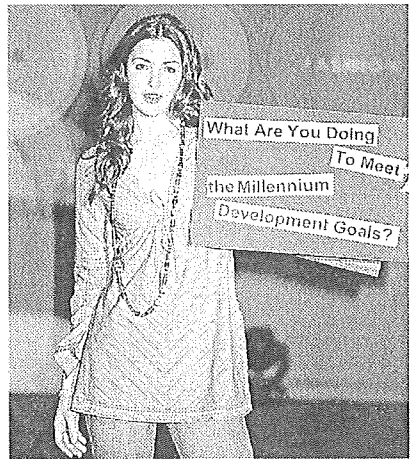
ベンチャー新市場

どこに対する消費者の関心の高まりを受け、収益と社会貢献を両立できるビジネス形態になりつつある。

「オレンジ色のサッカーボールはヒットしました」。グローバルトレーディング(東京・港)の倉林啓士郎社長は満足げに言う。自社で企画したデザインをパキ

リードを知ったという。コーヒーやチョコレト、民芸品などが主体の品ぞろえに満足せず、新商品開発に取り組み企業も多い。生協や自然食品店など三百七十店に商品を卸しているオルター・トレード・ジャパン(同・新宿、堀田正彦社長)は昨年、パレス

フェアト



フェアトレードカンパニーが開いたファッションショー

▼フェアトレード 第三世界や発展途上国の市民を支える貿易手法。商社など中間流通をなるべく通さず、現地の生産者と先進国の消費者が対等な立場で直接取引するという理念がある。通常取引より数割高い価格で生産者から買い取り、生活の安定を助ける。

欧米では一九八〇年代ころから、日本でも八〇年代ころから広がったといわれている。世界の経済システムの歪みなどが原因の貧困問題を解決する仕組みの一つとして期待されている。

「結果としてフェアトレードの認知度が高まり、国際貢献という理念の実現に近づければいい」と鈴木社長は言う。理念を大切にしつつ、事業をどう近代化するか。一般企業では当たり前前の企業努力が問われ始めている。(上田敬)

検査用ウエハー

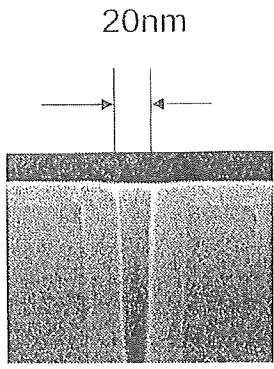
金属通す穴直径20ナノ

性能チップより精細に

半導体加工技術開発のフィルテック(東京、古村雄二社長、03・3512・0889)は、半導体製造装置の性能をより精細にチェックできる検査用シリコンウエハーを開発した。ウエハー同士をつなぐ金属を

フィルテック

通す穴を、直径二十ナノ(ナは十億分の一)と従来の四分の一にして一面に並べた。半導体の微細化に伴い、製造装置にもより細かな加工が求められるようになるため、メーカーなどの需要を開拓する。



フィルテックは20ナノメートルの穴をシリコンウエハーに開けることに成功した

半導体製造装置向け

多層構造の半導体は何枚ものウエハーを極細の金属でつないでつくる。そのためウエハーに開いている穴に、半導体製造装置が金属をきちんと通せるかを調べるのに検査用ウエハーを使う。

新開発の製品は波長の短いエックス線を使い、直径二十ナノの穴を直径八ナノのシリコンウエハー

上に細かく並べた。同社の従来技術では直径六十ナノが限界だったが、エックス線強度やウエハーの湿度、真空度合いなどを調整して実現した。価格は一枚二十万円程度と、同社の従来製品である直径八十ナノタイプと同程度に抑えた。半導体製造装置の生産効率向上を狙うメーカーなどに、このほど販売を始めた。初年度約一億円の売上高を見込む。

現在、多くの半導体の回路線幅は百八十一三百五十ナノだが、九十ナノの製品化が進み、四十五

ガラス繊維製フィルム

市、松本蔵社長、06・6396・0123)は、電照看板用のガラスファイバー製フィルムを開発

し、受注活動を始めた。ガラス繊維のため燃えにくく、従来のポリエステル製に比べ鮮やかな色彩を表現できるという。防火対策が必要な地下鉄駅構内や百貨店内などでの用途を見込む。

「結果としてフェアトレードの認知度が高まり、国際貢献という理念の実現に近づければいい」と鈴木社長は言う。理念を大切にしつつ、事業をどう近代化するか。一般企業では当たり前前の企業努力が問われ始めている。(上田敬)

料金最大9450円割引

ゴルフ場 イマジニア 会員制事業を開始

携帯電話向け情報配信のイマジニアは二十三日、首都圏十二カ所のゴルフ場を割引料金で利用できる会員制事業「GO P.A.S.S」を五月から二千

から始めると発表した。入会金、年会費とも五万円、首都圏十二カ所のゴルフ場を割引料金で利用できる会員制事業「GO P.A.S.S」を五月から二千

の需要は今後高まるとフィルテックは見る。フィルテックは富士通の半導体技術者だった古村社長が二〇〇一年に設立した。

人限定で会員を募り、子会社を通じて運営する。会員登録するとゴルフ場の予約状況や料金情報をメールで得られ、ゴルフ保険にも自動加入となる。登録するゴルフ場は順次拡大する。

将来は、イマジニアが運営するゴルフ場予約サイトと連携させる計画。携帯電話に搭載したICチップを使い、ゴルフ場の予約から入場時の手続き、決済までを携帯電話を使って簡単にできる仕組みを作る。

使う。顔料インクを使ったインクジェット方式で印刷するため、色あせしにくく、微妙な色彩の表現が可能となる。

これまでのポリエステル製フィルムの場合、ライトを消す層間は夜間の点灯時のような色彩を表現する危険性があった。

現しづらかった。価格はポリエステル製と同程度に抑える。廃棄時も通常のガラスと同様に処理できる。ポリエステル製は火災などの際、ダイオキシンの発生する危険性があった。